発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地
国立療養所 奄 美 和 光 園
電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

和光

令和４年１１月１日
（２０２２）
第127号

■表　紙……1
■新人紹介……2
■病院機能評価　認定更新……2～3
■３年ぶりの「敬老祝賀会」に笑顔……4
■動物介在療法　始めました……5～8
■第76回 国立病院総合医学会へ参加して……9～10
■不自由者棟湯沸室訓練火災発生!!……11～12
■ＢＬＳ・ＩＣＬＳ研修……13～14
■ムチモレ踊り……15
■HAPPY HALLOWEEN……16
■鹿児島大学医学部４年生　施設見学……17～18
■奄美和光園の歴史……19～20
■NST News Letter……21
■診療統計……22
■人事異動・和光園日誌・編集後記……22

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。

小さな秋

基本方針

1．入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2．入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3．入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4．ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5．入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6．地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7．ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8．開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9．入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

新人紹介

庶務班　庶務係　芳村　繁明（よしむら　しげあき）

はじめまして、10月から庶務課庶務係でお世話になっています、芳村繁明です。

出身地は熊本県です。趣味はドライブです。

奄美については、テレビ、新聞などで見る程度でしたが、実際に来島して自然の豊かさ、天気の変動などに驚かされましたが、奄美の観光を楽しみたいと思います。

まだまだ分からないことばかりで、ご迷惑をおかけすることもあると思いますがよろしくお願いします。

病院機能評価　認定更新

前号では、病院機能評価の認定更新のための受審が終了したことをお伝えしました。本号では、無事に３回目の認定を受けたことをご報告いたします。なお新型コロナウイルス感染症の影響で受審時期は延期されましたが、認定期間は2021年２月４日～2026年２月３日です。

病院機能評価受審は、医療・看護・事務の３分野が協働し、病院の機能が一定水準を満たしているか、つまり「良質な医療の提供が継続できているか」という視点で第三者（サーベイヤー）による審査を受け、より良い病院運営を目指すことが目的です。受審クラスのうち、和光園は「一般病院１：主として、日常生活圏域等の比較的狭い地域において地域医療を支える中小規模病院」に該当し、審査内容は事前の書類審査と２日間にわたる訪問審査からなり、評価項目は４の大項目・16の中項目・90の小項目に分かれ、小項目それぞれにつき「S:秀でている、A:適切に行われている、B：一定の水準に達している、C：一定の水準に達しているとは言えない、NA：非該当」の４段階評価となります。C判定をうけると再審査となってしまうため、全ての項目でB判定以上となるよう、多職種で構成する５つの対策グループを作り、準備を行ってきました。

前回の認定から６年４か月後の受審となり、審査基準も変わりましたが、和光園の中も変わりました。前回の審査結果を受けて、年報を作成するようになり、一般外来のシステムも一部変更しました。サーベイヤーからの指摘を根拠にパラメディカルの定員を増やすことができました。前回の受審でA判定を得た項目は水準を維持していること、B判定であった項目は改善したことなど、それぞれの項目の説明、マニュアルや会議録などの資料を準備し、令和４年５月18日・19日を迎えました。

審査が始まると次々と質問や確認があり、回答しているうちにあっという間に時間が過ぎていきました。全部門において受審は順調に進み、サーベイヤーから称賛の言葉をたくさんいただきました。今回の受審にあたり準備に当たった職員の皆さん、お疲れさまでした。そして準備に集中できるよう、入所者の皆さんの生活援助を丁寧に行ってくださった職員の皆さん、ありがとうございました。総括の一部を紹介します。

<病院の特色> 入所者の高齢化に伴い医療のみならず、看護・介護を含めた高齢者福祉にも重点が置かれている。また地域に開かれた機関として地域の信頼を得ている。病院機能は一定の水準に達し、特に人権擁護や医療安全等に向けた取り組みに努め、ハンセン病後遺症患者に配慮しながら適切に対応している。

<組織運営> 患者中心の医療を目指す精神が堅持され、各部門が理念の実現に向けて取り組み、日々努力している。

<患者中心の医療> 患者の権利を定め、現場における権利擁護の状況について管理し、患者・家族、職員に適切に周知している。外部委員を招いて人権問題を検討する場を設置するなど、患者の権利擁護に対する姿勢は評価できる。患者の病態や希望に沿ったきめの細かい対応に努め、倫理的課題に継続的に取り組んでいる。

<医療の質> 入院中の療養環境のみならず、居住棟における日常生活を社会に開かれた豊かなものにするため、入所者および家族の心情などに配慮しながら、数十年に渡って質改善活動を続け、病院機能評価を継続的に受審して業務の質改善に活用している点は、高く評価できる。今後は多職種協働による臨床指標の活用がすすむよう期待したい。

<地域への情報発信と連携> 地域活動は入所者と地域との交流に努めており、特に園内保育園の園児と入所者の交流が自然に行われている点、市民と入所者が共に野菜作りを行う取り組み、奄美大島独自の季節行事に触れる園内行事の積極的な企画など、高く評価できる。

<チーム医療による診療・ケアの実践> 居住棟の生活と入院棟での療養がシームレスにつながっており、手厚く支援する体制となっている。多職種が専門的な介入を継続し、長期にわたり入所者の人生を支えている点は高く評価できる。

<組織・施設の管理> 施設・整備は園内全域にわたり適切に管理している。大規模災害発生時などの長時間停電を想定した自家発電機の燃料確保については、電力の供給範囲、供給期間を想定した備蓄を検討されたい。

前回の受審ではＢ判定であった項目も今回の受審では多くがＡ判定となり、最終判定は「Ｓ判定：９項目、Ａ判定：73項目、Ｂ判定：２項目、Ｃ判定：１項目、ＮＡ：５項目」でした。Ｃ判定となったのは人材確保の項目で、当地が僻地事情に配慮する地域に該当するため、認定は得ることができました。

受審直前の４月に幹部職員を筆頭に対策メンバーの多くが入れ替わり、若干の混乱もありましたが、今回の受審結果や、サーベイヤーからいただいた**「奄美和光園は人生のケアを行いながら、たまに病気のケアを行っている施設」**という言葉に自信をもって、これからも入所者の皆さんに安心して生活していただける施設運営の継続に尽力いたします。

園長　馬場　まゆみ

認　定　証

Certificate of Accreditation

日本医療機能評価機構

認定第JC1782-3号
Accreditation Number

主たる機能：一般病院1
Hospital Type 1
(主として、日常生活回復の比較的長い期間において地域医療を支える中小規模病院)
機能種別版評価項目3rdG：Ver.2.0

病院名
Hospital Name

国立療養所奄美和光園
National Sanatorium Amami-Wakouen　殿

貴病院が日本医療機能評価機構の定める
認定基準を達成していることを証する

This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JQ accreditation standards.

認定期間：2021年2月4日～2026年2月3日
交付日：2022年9月2日
初回認定：2011年2月4日

☆☆☆
(認定3回目)

公益財団法人　日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

代表理事　理事長　河北　博文
Chairman of the Board　Hirobumi Kawakita

３年ぶりの「敬老祝賀会」に笑顔

令和４年９月８日(木) 13:30より、奄美和光園講堂にて、令和４年度敬老記念式典及び祝賀会が開催されました。

記念式典では、馬場園長の祝辞、奄美市からの敬老祝金の伝達贈呈、職員の祝唄、加納特命副園長のご発声による乾杯で、敬老の方々への祝意を表したあと、参加者全員で「和光園歌」の斉唱で心を一つにして、瀬之口事務長の挨拶で閉会となりました。そして、式典の後は、お楽しみの「祝賀会」です。

カラオケでは、入所者のＦさんが「紬の女」、Ｋさんが「四季の歌」、Ｈさんが「高校三年生」と十八番を披露され大盛況となったことをはじめ、職員も、部署ごとに、舞踊、空手の演武、カラオケ「島人の宝」、炭坑節の踊りと、工夫を凝らした余興を披露しました。

そして、会場の熱気も盛り上がったころ、「島育ち」で総踊り、六調によって最高潮となり、祝賀会はお開きとなりました。

コロナウイルス感染対策で、２年間開催できなかった敬老会だけに、参加された皆さんの明るい笑顔が印象的な敬老会となりました。

また、来年も、入所者さんも職員も一緒になって、お祝いできることを願っています。

敬老の方々、おめでとうございました。

福祉室　MSW　保　裕之

祝いの島唄

島の民謡「磯の松風」

「島人ぬ宝」でエイサー

空手演舞

みんなで合奏♬

最後はみんなで「六調」踊り♪

(=^・^=) 動物介在療法 始めました (=^・^=)

日本では28％の人が何らかの動物を家庭で飼育しており、かつては番犬やネズミ捕りといった実用性を求めて飼育されていた犬や猫が、今では「家族」のような存在としてとらえられるようになっています。私自身も生まれたときから家には犬と猫がいて、室内飼いの猫には宿題やピアノの練習を邪魔されながら、布団の一番暖かい場所を奪い合いながら、兄弟のように過ごしてきました。人生のなかで身近に動物がいなかったのは大学生時代の数年だけでした。残念ながら長くは生きられなかった子、最期に立ち会えなかった子もいましたが、それぞれの看取りの経験は、積極的治療から緩和医療の移行、尊厳死や自然死など、私の医療人としての考えの基盤になっていると思います。

さて、どちらかと言うと私は猫派でミックス（雑種）でも構いませんが、主人は犬派で種類にも思い入れがあります。先日、「どうしても、この子が欲しい」とインターネットで見つけた生後８週の子犬を家族に迎えました。いくら見ていても飽きません。以前から入所者の数名が動物を好きなことは知っていましたので、私のイベント企画魂にスイッチが入り、入所者や職員の了解を得て動物介在療法を始めました。

日本では、一般に動物を治療の中に用いたり、動物と一緒に施設などを訪問したりする活動を総じて「アニマルセラピー（広義）」と呼んでいますが、正式な用語ではなく、日本だけの造語です。正式には動物介在療法（Animal Assisted Therapy：ＡＡＴ）、動物介在活動（Animal Assisted Activity：ＡＡＡ）、動物介在教育（Animal Assisted Education：ＡＡＥ）のことを言います。ＡＡＴは治療的介入であり、身体面、認知面、行動面、社会情緒面の機能などの向上を目的としています。具体的には動物を話題にして会話が増える、動物に対する記憶が自然と引き出される、笑いが生まれる、触れることがリハビリテーションになる（表）などが言われています。ＡＡＡは触れ合い活動などを例とするレクリエーションで、和光園では入所者と職員の会話の素や、単身赴任で寂しさを感じている職員の一時の安らぎになるような、「ＡＡＴ的視点のあるＡＡＡ」でよいと思っています。

そもそも動物をみて、なぜヒトは穏やかになるのでしょうか。原始時代において、人間は自ら環境を正確に読み取ることができなければ生きていくことはできませんでした。例えば草食獣が慌てふためく姿を見れば、肉食動物が迫ってきて、自分も危険にさらされる可能性があると判断し、逆に草食獣がゆったりと草木を食べている姿を見れば、安全な環境だと判断したでしょう。肉食獣が満腹で寝ていれば、しばらく狩りはしないから安全だと判断したでしょう。つまり動物が安心してリラックスしている姿を見ると、人間も肩の力を少々抜いても大丈夫であると自然に感じ、逆に動物が緊張していたり何かに嫌悪や恐怖を抱いている様子を見ると、人間もまた緊張したり身の危険を感じたりする、これを「原始の血の説」というそうです。現代人は犬や猫をかわいい存在だとすでに認識しているので、仮に猫にシャーっと威嚇されてパンチを連打されても「かわいい～」です。

今までのところ、月１回のペースで４回実施しました。犬、ついでに連れて行った猫、いずれも入所者の皆さんに可愛がっていただいています。今後の課題として、「マンネリ化しないこと」が挙げられます。４回目ごろになると慣れるとともに飽きが生じるという報告があります。まだ子犬のため覚えた芸の再現性が安定せず、入所者の皆さんとの遊び

や出し物を計画しにくく、そもそも芸のレパートリーが限られます。飽きがこないプログラム作りが必要です。もう一つの問題は「犬が大きくなること」です。ベルジアン・シェパード・ドッグ・グローネンダールという犬種で、メスでも25kg前後になる大型犬です。入所者の方の膝にのって写真を撮れたのは１回目のみ、その後はみるみる成長中です。長毛で漆黒の被毛が特徴で、オオカミのような外見なので、入所者の皆さんに怖がられないか心配です。カッコいい芸で入所者の皆さんに楽しんでいただけるような子に育てるのが目標です。

園長　**馬場　まゆみ**

プロフィール

ララ:楽良、Lara（光、幸せ、明るい）	ルリ：瑠璃
チャームポイント：胸の白毛	チャームポイント：瑠璃色の眼
千葉県生まれ	園内をさまよっていたので保護
左：生後９週、右：６か月	４歳３か月くらい

動物との触れ合いによるリハビリテーション

肩関節可動域訓練	頭から尻尾の先に向かってなでる。ボールを投げる。
上肢外転運動	なでる。ボールを投げる。猫じゃらしを振る。
手の回外運動	下腹部をなでる。平手投げでボールを投げる。
細かい手の動作練習	小さなおやつを与える。
移動練習	動物に自身から近づく。
歩行訓練	動物と散歩をする。
立位バランス訓練	立位で動物をなでる。
躯幹の平衡訓練	抱く。動物を他の人に手渡しをする。
言語訓練	名前を呼ぶ。お座りなどの指示をする。

In 抱っこ紐（生後９週）

ぬいぐるみサイズ（生後２か月半）

第１回ＡＡＴ（生後３か月）　入所者に抱っこしてもらえるギリギリサイズ！

第２回ＡＡＴ（生後４か月）　ルリも参加！ララよりも人気獲得（笑）

第３回ＡＡＴ（生後５か月）　ララはおむつが取れました！
ルリは家とは大違いで、まさしく「猫を被る」！

第４回ＡＡＴ（生後６か月）　ハッピーハロウィン
すでに飼い主の胸の高さまで成長！

～追 伸～

12 月末、８カ月齢のララは体重 22kg となり、おおよそ成犬と同じくらいの大きさになりました。そんな折、ホワイト･シェパードの２ヶ月齢の女の子、リリー（Lily：百合）が馬場家に加わりました。たった 10 日で写真のように成長し、ただいま毎週 1kg ずつ大きくなっており、最終的にはララよりも 10kg 大きな子になる予定です！

2023 年１月の第７回アニマルアシストセラピーでデビューしました。今後ともよろしくお願いいたします。

第76回 国立病院総合医学会へ参加して

毎年、国立病院機構が主催し、全国から新たな知見が集まる国立病院総合医学会が、令和４年10月７日と８日、熊本県の熊本城ホールで３年ぶりに現地開催されました。和光園からは、馬場園長を始め、中嶌総看護師長、坂口病棟看護師長、髙橋福祉室長、秋山栄養係長、湯脇作業療法士の計６名が参加し、各々、和光園での取り組みや成果を発表して参りました。

私は、去年、園全体で取り組んだ入所者の退院支援を例に、ハンセン病療養所のリハビリに関してポスター発表を行いました。学会発表は初めてであり、不格好に映っていたかと思いますが、自分の中では、当園での予行演習よりも良い感触を得てやりきることができ、色々な方の支援を受けて形にしてきた経緯もあり、感慨もひとしおでした。これも、和光園の職員のおかげと感謝の念に堪えません。また、今回の参加にあたり、サポートしてくださった事務部門の方々にも感謝申し上げます。

今まで、学会発表の参加は個人的に縁遠いものと感じておりましたが、他院で働く先生方の取り組みを学べ、かつ、自身のリハビリを振り返る機会を経験し、参加することの意義と価値を理解することが出来ました。自分は無知であることをとことん自覚し、落ち込みそうになりましたが、謙虚さを忘れずに勉強を続けていかねばと発奮致しました。赴任前の病院で一緒だった先輩・同僚と顔を合わせられたことも嬉しかったです。

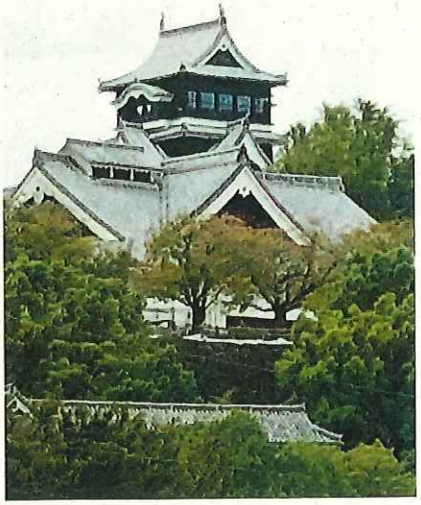
この経験から得た学びを、和光園入所者の方々のため、役立てていけるよう今後一層励んで参りたいと思います。

リハビリテーション室
作業療法士　湯脇　寛真

坂口師長がくまモンと会えたようです！

ポーズがきまってます！

修復中の熊本城



☆ 和光園代表 集合写真 in 熊本城ホール ☆

久しぶりの熊本でした。発表だけでなく、熊本城（修復中ではありましたが…）を見ることもできて良かったです。

栄養係長　秋山

施設代表として発表の機会をいただきいい経験になりました。

病棟看護師長　坂口

他施設の皆さん様々な取り組みをされていて勉強になりました。

福祉室長　髙橋

本番に強い皆さん、さすがです！会場ではくまモンが登場し大盛況でした。

総看護師長　中嶌

全国から熊本に参加者が集まり、会場は大にぎわいでした！

作業療法士　湯脇

皆さんが堂々と発表する姿に感涙！実りの多い学会参加でした(*^^)v

園長＆皮膚科医　馬場

秋山栄養係長が、祝 ベストポスター賞を獲得！

赴任したばかりのポスター作成は大変でしたが、みなさんの協力のおかげでベストポスター賞をいただくことができました。
しかし今回の結果に甘んじることなく、今後も頑張りたいと思います。

和光園代表の皆さん、素晴らしい発表をされておりました。多くの学びと刺激を得られ、充実した学会参加となりました。^^
来年は広島県開催です。和光園の益々の活躍を期待し、また盛り上げていけたらいいですね。

不自由者棟湯沸室訓練火災発生!!

令和４年10月13日13：30不自由者棟湯沸室から訓練火災が発生しました。火事発見、初期消火、園内放送、消防通報、担送１名、護送２名の模擬入所者の避難搬送、重要物品搬出の訓練とし、今までコロナ禍で多忙だった消防隊から３名お越し頂き厳しくチェックしてもらいました。久しぶりに消防隊の見守る中での訓練だったためか、去年よりも真剣味が違って見えました。

今回の訓練では、園内放送を聞いて行動し、現場では師長の指示に従い模擬入所者の搬送を行うなど訓練内容どおりに行動することを重視しました。内容を知っていれば、どこに（模擬）入所者がいるかは事前に分かっていますが、本当に起こってしまった際は、園内放送、現場指示がなければ、動くことができないため今回は指示を聞くということを改めて認識して頂きました。このことは、火災だけでなく、その他の災害で避難が必要な場合はとても重要なこととなりますので、今後も入所者の皆さんを守るため訓練に協力をお願いします。今回はターボリン担架による搬送も行い、今年度のＢＬＳ研修で取得した技術を活かしスムーズに担架へ移動させることができました。職員の誰もが搬送に関わるかも知れないということを忘れず、ＢＬＳ研修、消防訓練の際に実践していただきたいと思います。

消防隊からの講評では、「役割分担ができ、情報の伝達もきっちり行われていた」と良い評価も頂きましたが、「消火よりもまず人命救助」との指摘を頂きました。当園の訓練は、自衛消防隊が現場に駆けつけたらまずは、搬送、搬出班も消火を行い、「初期消火失敗」を消火隊長より発令されたら、搬送、搬出に向かうとしていましたが、初期消火をしながらも、人命救助をした方が良いとの事でしたので、今後の課題とさせていただきます。園長からは、指示を聞いて動くことが出来ていたと良い評価をいただきました。

消防訓練のあと、水消火器での消火器使用訓練を行いました。消防隊から使用の説明を受け４名の職員が実践しました。レバーを引くと、思った以上にホースが振り回され水が吹き上がったり、実際にしてみなければ分からなかったこともありました。

消防隊のご協力もあり有意義な消防訓練になりました。園長も、「あってはならないことだが起こりえることなのでシミュレーションが必要」と講評で言われていたとおり、今後も多くの職員に参加してもらい訓練をしていきたいと思いますのでご協力お願いします。

庶務班長　**岡部　達枝**

火事発見。「火事だー」

園内放送・消防通報「訓練火災発生！」

消火器による初期消火

初期消火失敗。消火栓で消火中。

師長の指示を聞く自衛消防団・搬送班

担架で搬送

車いすで搬送

園長による講評

今年もBLS（和光園Ver.）研修を開催

今年度も全職員を対象にＢＬＳ研修を実施しました。ＢＬＳ研修を担当する“和光園助け隊”は、今年で活動６年目を迎え、ＢＬＳ研修は毎年恒例の研修として定着してきました。受講生の中には何度も研修を受けてかなり上達している職員、全くの初心者の職員と、個人の熟練度は様々です。しかし、研修後のアンケートでは熟練度に関係なく、「勉強になりました」「毎年受講できてありがたいです」などの声とともに今後もＢＬＳ研修を受講したいという職員が100％という結果が得られ、和光園助け隊の一人としてとてもやりがいを感じています。

今年度は緊急時の対応の新たな演習項目として、「窒息時の対応」と「担架での搬送」訓練を一緒に行いました。「継続は力なり」を胸に職員一丸となり、今後も“助け隊”として努力していきたいと思います。

胸骨圧迫・ＡＥＤ操作

窒息時対応
腹部突き上げ法（ハイムリック法）

担架を用いての搬送

今年からICLS（和光園Ver.）研修を開始

今年度から看護師を対象にＩＣＬＳ研修を開始しました。

ＩＣＬＳとは、日本救急学会が開催している蘇生教育コースで、“突然の心停止に対して最初の10分間の適切なチーム蘇生を習得する”を到達目標としています。急変対応には経験の積み重ねが自信に繋がると考えていますが、和光園では突然の心停止に遭遇する場面は少なく、できることも限られます。それでも看護師として万が一に備えておくことが大切です。まず急変が起こらないことが一番ですが、緊急時に自信をもって行動できるよう研修を積み重ね、看護師のチームワークを高めていきたいと思っています。

病棟　看護師　大黒 将志

※ＢＬＳ（和光園Ver）はＡＨＡ公認のＢＬＳ研修ではありませんが、和光園ＢＬＳインストラクターの指導の基に研修プログラムを作成しています。

※ＩＣＬＳ（和光園Ver）は日本救急学会公認のＩＣＬＳ研修ではありませんが、和光園ＩＣＬＳインストラクターの指導の基に研修プログラムを作成しています。

ムチモレ踊り

秋晴れの空の下、色とりどりの浴衣に身を包んだ職員がチヂン（太鼓）を叩き、奄美の伝統行事の「ムチモレ踊り」(注)を一般舎と講堂の２か所で披露しました。

「東西～、東西～」と威勢の良いかけ声に新聞紙で作った焼酎やおにぎり、手踊り用の花、日の丸の旗が「花の披露」として読み上げられました。食べられないおにぎりに入所者も苦笑いしていましたが、私も私もと膝や胸におにぎりを抱えてにっこりしていました。六調の曲が流れると島人の血が騒ぎ何度も踊り、浴衣は着たものの、慣れない下駄を履き、足の皮が剥けるほど全員が汗をかきながら踊りました。翌日には全身筋肉痛でしたが、入所者のみなさんの笑顔と楽しいひとときを過ごすことができました。

コロナ禍の中でレクリエーションや外出などの行事が思うようにできない日々が続きましたが、これからは少しずつ以前のようにみなさんとゆらう（寄り添い、語り合う）日が訪れることと思います。

看護サービス委員会では、これからもみなさんと共にワクワクするような企画を考えていきますので、また一緒に笑い飛ばしましょう！

注）ムチモレ踊り：島踊りや六調で五穀豊穣、無病息災を祈願する奄美の伝統行事のひとつ

看護サービス委員　病棟　龍　久美

HAPPY HALLOWEEN

秋といえばハロウィンが定着してきましたね。今年は保育園内にてハロウィンレクリェーションを行いました。子どもたちが作ったオバケやコウモリ、ジャックオーランタンなどで装飾し、ハロウィン仕様でいつもの保育園とは違った雰囲気の中、ドキドキわくわくしながら可愛い姿にへーんしん！

さぁ、待ちに待ったハロウィン、元気いっぱいの踊りでスタートです。少し照れながらも「ぞうさんシャワー」「クワガタ体操」の２曲を最後まで踊りオープニング大成功！

レクリェーションはたくさんのゲームを用意しました。まずは、ミニオバケトンネルをくぐると、アンパンマンやオバケに遭遇、懐中電灯で消えたり出現する様子に不思議そうな表情と、つかまえようとする可愛い姿を見せてくれました。輪投げやボーリング、ボール入れなど張り切って挑戦し、ボーリングピンが全部倒れるまで何度も何度も頑張っていましたよ。

秋の芋ほりでは、プール内に子どもたちが新聞紙で作った芋を用意し、引っこ抜けるように準備し、「うんとこしょ、うんとこしょ」と小さな体で沢山の芋を収穫することができました。なんと、31日はハロウィンにちなんでカボチャオバケもサプライズで潜んでいました。色々なゲームに子どもも大人も大盛り上がりでとても楽しい時間となりました。

皆様からたくさんのお菓子をいただき、ありがとうございました。

とびっきりの笑顔で喜んでいました。

♪ HAPPY HALLOWEEN ♪

保育士　**碩　　茜**

おばけ

ボーリング

ボール投げ

輪投げ

鹿児島大学医学部４年生 施設見学

10月27日、鹿児島大学医学部４年生の２名が施設見学に訪れました。医学部の４年生という時期は、医学の基礎知識や患者さんとの接し方などを学び、病院実習に備える学年です。やや青臭い理想を掲げ、将来への夢と希望に満ち溢れた、眩しい世代です。私にとってはすでに20年前！

２時間弱という短い時間でしたが、ハンセン病療養所という「小さなまち」のなかに、病院（病棟）があり、一般舎や不自由者棟、売店や畑、教会といった入所者の生活空間があるという独特な環境を「究極の地域医療とまちづくり」「理想とする医療」と表現してくれました。

病院機能評価受審におけるサーベイヤーからの言葉と通じるものがあり、評価者としての専門的な視点、医学の道に足を踏み入れたばかりの若い視点、いずれにおいても今の和光園を「職員全員で入所者の生活を支えている施設」と見ていただけたことに、「和光園の職員、すごいでしょ？！」と誇らしく感じました。

以下、初々しい二人の言葉です。

～Ｋさん～

３年前に和光園に興味を持ち、コロナ禍もありやっと実現した訪問でしたが、医学生生活を折り返したこのタイミングで、私にとってとても重要な意味を持つ経験となりました。

何より印象的なのが、医療スタッフの皆さんや事務の職員さんまでとっても幸せそうなことです。強制や義務感でしているのではなく、仕事をされていて本当に楽しくて嬉しくて、そして心からやりたいことをされているのが伝わってきて、この小さなまちは入所者さんも職員さんも周辺の住民も、みんな幸せに暮らしているのだということが感じられました。

生活の中の丁寧で細やかな気遣いや、温かい雰囲気の園内の様子からは職員さんやそこで暮らすみなさんの真心を感じました。

「医療より生活」という部分では、一人ひとりの幸せを目指した究極の地域医療とまちづくりを見ました。

また、馬場先生が全ての職員さんとフラットな関係を築いていらっしゃるのは、きっとその素敵なお人柄なのだなと感じます。ついリーダーシップを取りすぎてしまったり、意図せず上に立たされてしまう医師もいますが、園長という肩書にもかかわらず、他のスタッフさんの先生と話すときの表情からその素敵な関係性が伺えました。理想の地域医療の形としても、チーム医療の在り方としても学ぶことばかりでした。

和光園には悲しい歴史はあるけれど、もっと大きく存在するのは人の幸せとまごころなのだということがよくわかりました。貴重な経験を本当にありがとうございます。

いつか職員の皆さんと一緒に、入所者さんを喜ばせられるようなイベントを何かやってみたいです。

～Ｈさん～

私は、和光園はハンセン病の療養所という知識のみで見学に訪れました。以前ＮＨＫでハンセン病療養所についてのドキュメンタリーを見たことがありましたが、それはとても悲しいもので、その印象がとても強かったです。和光園の説明を聞いて、「死んでも出られない」という強い言葉に衝撃を受けました。今とは違い、ハンセン病は昔は怖いもので、強制収容され、隔離され、差別されるものでした。だからこそ、療養所の中に、住居だけでなく、教会や病院から始まり、火葬場や納骨堂までもがつくられ、まる

で人里離れたひとつの村のような場所になるしかなかったのだと知りました。和光園自体が悲しい過去によりできた施設であることは事実です。ですが、今の和光園はその話を全く知らなければ、全てが揃う完結したひとつの村。そしてその中の施設は素晴らしく、そこで働く方達も暖かくてキラキラしていました。

医学部に入り勉強して行く中で、人を救うということは、病気を治すことではないことを学びました。患者さんの人生の伴走者たることが医師として本当に大切だと感じます。病気の治療はその中のほんの一部でしかないのです。病気のある人が、病を抱えながらも自分の人生を精一杯楽しく生きるためのサポートこそが、これからの医師に求められることだと感じていますし、自分の理想とする医師像であると思っています。

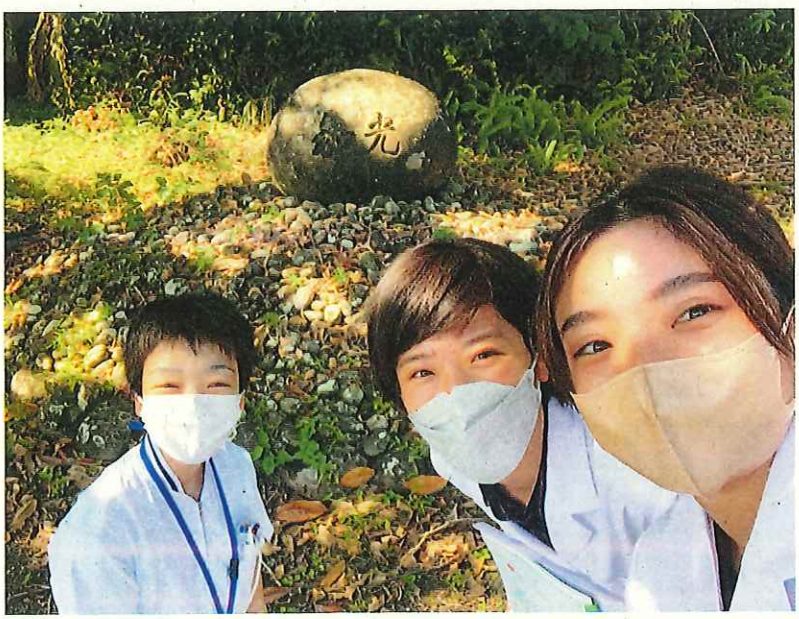
和光園では「その人らしさを大切に」をモットーに入所者の方に寄り添い、その方の生活を大切にした医療が行われていました。医療よりも、心豊かな療養生活が理念に掲げられていました。そこには私の理想とする医療があると感じました。

施設内には、元ハンセン病患者さんが抱える合併症や後遺症に配慮された工夫が至る所に施されていました。入所者の方一人ひとりに向き合い、寄り添う。そのために施設内に工夫が施され、そこで働く方々もそのために全力を尽くされていました。一人ひとりの生活や心、体に向き合い、寄り添い、支える。まさに私の理想とする、「暖かい医療」です。

自身は東京出身で、都会という場所に寂しさを感じ、都会の「冷たい医療」を問題視しています。和光園にある「暖かい医療」を、「冷たい医療」のはびこる都会に持ち帰れたら良いのではないかと思いました。そのために超えていかなければいけない壁は山のようにありますが、今後も和光園から多くを学ばせていただければと思いますし、和光園以外のハンセン病療養施設にも足を運びたいと思います。

こんな風に感じさせていただけたのは、学生２人の見学のために、丁寧に資料の準備から、スライドショーを用いた説明、そして施設内の案内など、馬場先生はじめ多くの方々の心のこもった温かいご対応をあってのことです。和光園での経験はこれからの自分の医師として進む道に大きな影響を与えてくださったと思っています。

園長　**馬場 まゆみ**



― 奄美和光園の歴史 ―

（11）歴史的建造物（旧霊安解剖棟、浄水所跡、旧火葬場、旧納骨堂）

行啓記念公園の脇を流れる小川に沿って若竹寮方向へ上っていった右側に、旧霊安解剖棟が建っていた。旧霊安解剖棟は昭和46(1971)年に完成し、平成３(1991)年７月まで使用されていた[1]。旧霊安解剖棟は老朽化が著しいため、入所者自治会の希望により、写真撮影のうえ解体して跡地整備を行い、令和４(2022)年３月に慰霊碑を設置した[2]。

霊安解剖棟慰霊碑の場所をさらに上っていくと、右側に浄水場跡の一部が見えてくる。かつて山手の貯水池から竹樋(たけとい)で居住区へ配分されていたが、昭和29年ダム式給水工事完成により配管給水となり、昭和31年浄水場が完成し不自由をかこっていた水道問題は一応解決している[3]。現在は、旧福祉室横と病棟前の川沿いの２箇所から地下水を汲み上げて、一旦ボイラー室横にある巨大な受水槽２器に送り、ここから送水ポンプですべての生活用水が、ふんだんに供給されている[4]。

小鳥のさえずりを聞きながら、浄水場跡をさらに上っていくと、その奥の左側の川沿いにダチュラ(エンジェルトランペット)の群生、右の山側には金作原(きんさくばる)原生林を感じさせるヒカゲヘゴ(日本最大のシダ植物)が見えてくる。

更にその奥の上っていったところの右側には、旧火葬場が建っていた。旧火葬場は、昭和31(1956)年１月23日に新設され、療養生活を終えた寮友達は入所者の手によって荼毘(だび)に付せられた。平成３(1991)年に火事が発生したのを機に使用されなくなり、その後の火葬は、奄美市斎場を利用するようになった。平成12(2000)年３月に旧名瀬市に廃止届を提出した[6]。旧火葬場も老朽化が著しいため、写真撮影し旧霊安解剖棟と同時期に解体して跡地整備を行い、令和４(2022)年３月に慰霊碑を設置した。

火葬場慰霊碑をさらに上っていくと、左側の小川を渡った小高い場所に、白い建物が見えてくる。旧納骨堂である。当時の大西基四夫園長（在任Ｓ32～Ｓ44）の依頼を受けて、旧名瀬市出身の彫刻家　故・基俊太郎(もとい しゅんたろう)が設計した[7]。

2.8m四方のキュービック型に丸みを帯びた外観で、建物全体を中央下のはりで支えるキャンティレバーの構造となっている。昭和28(1953)年から10年の歳月を経て、88箇所からの志ある浄財712,935円、職員36名、入所者399人の方々が、額に汗を浮かべての勤労奉仕により昭和38(1963)年８月に完成した[8]。この納骨堂が出来るまで、入所者の遺骨は旧講堂の舞台裏や自治会事務室等に保管されていた[9]。昭和59(1984)年３月、現納骨堂の完成により21年間使用された用途を終了した[10]。

旧納骨堂は、歴史的建造物として後世に残すため、平成30(2018)年に壁面を白色に塗り扉を修復した。修復の翌年、平成31(2019)年２月３日(日)、基俊太郎の妻俊子さん(74歳、東京在住)が９年ぶりに現地を訪れた。俊子さんは「屋根のドーム状のトップライト(天窓)は、扉を開けると室内へ光が差し込むように見える設計と聞いている。亡くなられた方が生涯を通じて味わった苦しみに対する主人のいたわりの気持ちではないか」と思いを寄せ、「改めて感動した。本当に素晴らしい」と感激していた[11]。

霊安解剖棟慰霊碑から旧納骨堂へと続く約200mの小道は、園内とは思えない程奄美の自然が満ち溢れている場所である。亡くなった入所者を霊安解剖棟に安置し、火葬場で火葬を行い、小川を渡って納骨堂へ納骨という、一連のストーリーとして配置されている。

福祉係(学芸員)　岩辻 好夫

1 奄美和光園歴史的建造物にかかる説明, 平成25年11月29日
2 奄美和光園歴史的建造物にかかる合意書, 平成25年11月29日
3 国立療養所奄美和光園 創立40周年記念誌, 昭和58年４月５日, P21
4 広報誌 和光 第50号, 平成14(2002)年11月１日, P1
5 国立療養所奄美和光園 創立40周年記念誌, 昭和58年４月５日, P33
6 奄美和光園歴史的建造物にかかる説明, 平成25年11月29日
7 南海日日新聞2015年(平成27年)１月１日, P41～43(基 俊太郎：1924(T3)～2005(H17))
8 創立70周年記念誌 国立療養所奄美和光園, 平成25年(2013), 平成27年３月発行, P154
9 ふれあい福祉だより, 第14号, 2017, P70
10 奄美和光園歴史的建造物にかかる説明, 平成25年11月29日
11 南海日日新聞2019年(平成31年)２月14日, P1

交流会館(歴史資料館)歴史的建造物編
旧納骨堂訪問

https://www.youtube.com/watch?v=EyDbaggwsRo

交流会館(歴史資料館)歴史的建造物編
火葬場慰霊碑、霊安解剖棟慰霊碑完成

https://www.youtube.com/watch?v=u7aQKr9gtw0

NST News Letter No.23

「口腔ケア用品の交換時期と適切な管理について」

みなさんは日頃の歯磨きや義歯のお手入れに関して気を付けていることはありますか？今回は、そんな歯磨き用品のお手入れに関する豆知識についてお話したいと思います。

まず、お口の中にも細菌がいることをご存じですか？　私たちの口の中には300～700種類の細菌が存在していると言われています。その細菌の中には全身疾患（糖尿病、脳梗塞、心筋梗塞など）に影響を与える原因菌も含まれており、免疫力の低下とともに増殖し、病気を引き起こすことがあります。

歯周病や虫歯予防のみならず、全身疾患の予防としても口腔ケアが大切です。

そして、口腔ケアの定番アイテムと言えば歯ブラシ。残っている歯を健康に保つために欠かせない物ですが、手入れや交換時期を間違うと逆効果になる恐れがあります。物持ちが良いということはとても良い事ですが、歯磨き用品に限っては当てはまりません。１カ月使用した歯ブラシの例について、下の図をご覧ください。

１カ月使用した歯ブラシは危険!!

トイレの水の80倍の細菌!!

歯磨き後の歯ブラシには100～1000万個の細菌が付着しており、これは**トイレの水のおよそ80倍！**こうした細菌が、虫歯や歯周病はもちろん、口臭の原因になります。

毛先が開いた歯ブラシも危険！

毛先が開くと清掃効率が**６割程度に低下**してしまうため、虫歯・歯周病のリスクが高くなります。また、痛んだ毛先で磨く事で歯・歯茎を傷付ける可能性が高くなります。

歯ブラシに付着した細菌はしっかり洗浄しても完全に除去されることはありません。そのため、**１か月に１回は歯ブラシを交換**し、２週間程度で毛先が開く場合にも新しい歯ブラシへ交換することが望ましいです。これは歯ブラシのみならず、他の歯磨き用品にも共通することです。

また、初めに細菌の種類は300～700種類とお伝えしましたが、口腔内に住み着く細菌の数は歯をよく磨く人で**1000～2000億個**、ほとんど磨かない人は**１兆個**存在していると言われています。

毎日のお手入れで繁殖を抑えるには、**歯ブラシをよく洗い、よく乾燥**させる事が大切になります。

最後に、インフルエンザが流行する時期になりましたが、今年は新型コロナとインフルエンザの同時流行が懸念されています。病気の入り口は「口」です。感染症予防のためにも口腔ケアをしっかり行い、お口から全身の健康を守りましょう。また、口腔ケアに関する疑問や、お悩みがありましたらお気軽にご相談ください。今後も入所者のみなさんがより良い生活が送れるよう支援したいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

歯科衛生士　松原　ゆかり

令和４年度 診療統計

	外来診療					再掲		入院診療	BIO	
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	１日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	延患者数(人)	導入	維持療法
9月	66	182	248	22.5	11	47	4	0	0	0
10月	86	189	275	25.0	11	49	19	0	0	0

人事異動 （令和４年９月１日～令和４年10月31日）

R 4. 9. 1	則岡　静香	看護師	復職（育児休業）
R 4. 10. 1	芳村　繁明	事務補佐員（非常勤）	採用

和光園日誌 （令和４年９月１日～令和４年10月31日）

R 4. 9. 7	ＢＬＳ研修
9. 8	敬老祝賀会
9. 21	ＢＬＳ研修
9. 29	第３回アニマルアシストセラピー
10. 5	ＢＬＳ研修
10. 13	消防訓練
10. 19	ＢＬＳ研修
10. 20	秋祭り
10. 26	第４回アニマルアシストセラピー

編集後記

今号は秋の発行になります。島の長い夏も終わったようで、「小さい秋」を探してみました。ところが「澄んだ空」や「紅葉」、「田の実り」といった九州や本州で見かけるような光景とはまた違うのが島の秋です。

先日、地元の小学校が運動会のため、園に蘇鉄の葉をもらいに来ました。入場門を蘇鉄の葉で覆い、飾り立てるのですが、その入手先として和光園に自生する蘇鉄を刈っていくのです。興味にかられ、当日学校に見に行きましたが、なかなか壮観でした。「運動会」も秋の一風景ですね。

島の秋は短くてすぐに冬が来ます。島外から来た人たちには暖かい、けど島に住んでいる人たちにはやっぱり寒い冬がすぐそこまで。今度は「小さい冬」を探してみよう。

編集委員　岩橋　竜一